

佐賀の林業

VOL. 669

Issue 2026.02.01



森川海人の環境保全に関する調査・研究活動等の発表を行った
高校生・大学生の皆さん



高校生による発表



トークセッションで質問に答える高校生



森川海での保全活動などに積極的に取り組まれている皆さんに

山口知事から感謝状を贈呈

森川海人っサミット（令和8年1月：ホテルグランデはがくれ[佐賀市]にて）

《林業ひろば》

- ・SAGA 伐木チャンピオンシップ 2025 2～3
- ・「第2回さがの木になるフェス」を開催 4

《林政だより》

- ・森川海人っ森づくり協定について 5
- ・荒廃森林の再生につながる森林づくり 6
- ・「火災予防」及び「火入れ」条例の一部改正
～ “林野火災注意報・警報”の運用が始まります～ .. 7

《普及だより》

- ・「森川海人っ教室」を開催
～小学生が森・川・海のつながりや森林の働きを学習～ .. 8
- ・森林組合の担い手不足解決への取組 9
- ・森林組合でワークショップを開催 10

《林試だより》

- ・虹の松原にて保護部会研修会を開催 11

《裏面》

- ・表彰受賞のお知らせ、緑の募金御協力のお願ひ 12

フォレストワーカーの熱き戦い！

令和7年11月22日（土）、早朝色とりどりのバルーンが浮かぶ中、佐賀市の嘉瀬川河川敷において「SAGA 伐木チャンピオンシップ2025」（SLC）を開催しました。本イベントは、伐木技術や安全意識の向上、また林業の魅力発信を目的として、令和3年度から隔年で開催し、今大会で3回目となります。

佐賀県が主催し、林業・木材製造業災害防止協会佐賀県支部、佐賀県森林組合連合会、一般社団法人佐賀県木材協会、県内の林業事業者からご協力いただきました。また、今年は、木工体験などが楽しめる「第2回さがの木になるフェス」と同時開催ということもあり、老若男女問わず、多くの方にご来場いただきました。おかげで、観客数は1,720人、選手や関係者を含めると約2,000人の方にお越しいただきました。



大会の始まりを告げる掛け声 オー！



日頃の仕事で培った技術を発揮する選手たち

3種目で競う

本大会には、12の事業者から17チーム、29名の選手が出場し、「伐倒競技」「丸太合せ輪切り競技」「枝払い競技」の3種目を競いました。伐倒競技は、地上高11mのマストツリーを目標杭めがけて正確に伐り倒す競技です。木が倒れた時には、その迫力から、観客の「オー！」という歓声や拍手で会場が盛り上がりました。丸太合せ輪切り競技と枝払い競技は、会場に設置された特設ステージ上で行われ、観客やライバル選手の視線が集まる中、緊張しながらも、全力で競技されていました。

競技終了後には、選手同士で称え合う姿も…

全国・世界大会出場選手も参戦

今大会では、特別招待選手として、世界大会や日本大会への出場経験のある4人の方に来ていただきました。世界大会への出場経験のある今井陽樹選手と杉本和也選手。今井選手は来年スロベニアで開催される世界大会への出場が決まっています。また、日本大会において上位入賞経験のある坂口学選手。坂口選手は招待選手唯一の佐賀出身です（太良町森林組合所属）。



全国・世界レベルの技術を披露する招待選手たち

そして、日本大会への出場経験があり、前回のSLCにおいて競技解説を担った國武智仁選手。この4人で上述の3種目を競い合い、その姿・技術の凄さを会場にいる全員が食い入るように観覧されていました。また、ソーチェン着脱のデモンストレーションも行われ、その速さに会場は大盛り上がり！

日本大会上位入賞経験のある岩永大輔様（太良町森林組合所属）の競技解説も的確で、競技の内容や注目ポイントなどを分かりやすく説明していただきました。皆様、誠にありがとうございました。

競技結果

総合1位～3位

| 順位 | チーム名 | 選手① | 選手② | 総合点 |
|----|----------|-------|--------|-------|
| 1位 | 坂元林業 | 坂元 巧 | — | 1,159 |
| 2位 | 太良町森林組合A | 山口 裕也 | 峰松 大樹 | 1,051 |
| 3位 | 太良町森林組合B | 朝永 信一 | 名倉 航太郎 | 1,040 |

3種目合計としては
過去最高得点！

種目別1位

| 種目 | チーム名 | 選手 | 得点 |
|------|------|------|-----|
| 伐倒 | 坂元林業 | 坂元 巧 | 623 |
| 丸太合せ | 西部林業 | 三宅 優 | 171 |
| 枝払い | 坂元林業 | 坂元 巧 | 364 |

招待選手

| 順位 | 所属 | 選手 | 総合点 |
|----|---------------|-------|-------|
| 1位 | 合同会社ひのきや | 今井 陽樹 | 1,259 |
| 2位 | 岐阜県立森林文化アカデミー | 杉本 和也 | 1,178 |
| 3位 | 太良町森林組合 | 坂口 学 | 1,114 |
| 4位 | 國武林業 | 國武 智仁 | 1,057 |



選手・スタッフ全員での集合写真



総合1～3位を受賞した選手



上：女性選手へのインタビュー（美山選手・久保田選手）



下：大会前、暑い中、ルール勉強に励むスタッフ（林試にて）

感謝を込めて・・・

私にとって初めてのイベントでしたが、ご来場いただいたお客様の笑顔や選手同士が触れ合う様子を見て、このイベントの素晴らしさを実感しました。これもひとえに、本大会にご参加・ご協力いただいた選手、スタッフ、関係団体、事業者、出店社の皆様のおかげです。この場を借りて、心から感謝申し上げます。

今後も、本大会が林業従事者の技術・安全意識向上の場として、林業の魅力を伝える場として、そして、林業従事者の親交を深める場として、成長できるよう、引き続きのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（林業課 企画振興担当 小宮慶久）

当日のダイジェスト動画や競技結果の詳細は、県林業課の運営サイト「よかウッド」にて公開中！



「第2回さかの木になるフェス」を開催

木とふれあい、笑顔が広がる

令和7年11月22日（土）、嘉瀬川河川敷特設会場にて「第2回さかの木になるフェス」を開催しました。このイベントは、県民の皆さまに木育や林業の魅力を伝えることを目的として開催しています。会場には県産木材を使った工作体験や、迫力あるチェーンソーアート、建築体験など、気になるブースが盛りだくさん！子どもたちは、積み木や木のクルマづくりなどに夢中になり、大人も木の香りを生かしたアロマスプレーづくりなど様々な体験に挑戦。

秋晴れの中、家族連れを中心に幅広い世代が訪れ、木の香りや手触り、木工工作の楽しさに触れ、県産木材の魅力を体感しながら、森林資源の循環利用についても理解を深めていただけた一日になりました。

さらに、今年は、チェーンソーによる伐木の技術を競い合う「SAGA伐木チャンピオンシップ 2025」と同時開催ということもあり、約2,000人の方にご来場いただき、大変な賑わいを見せました。



イベント会場

話題のブースをピックアップ

一番の注目は、職人技が光る「チェーンソーアート」。一本の丸太が巧みな技によりフクロウや馬の姿に仕上げられていく様子に「迫力がある！」「本物みたいですごい！」という驚きの声が上がりました。

また、工作ブースでは、「スマホスタンドづくり」が大人気。「5歳の子でもできました！」と親子で楽しむ姿が印象的で、体験ブースでは、木のジャングルジム「くむんだー」に子どもたちが興味津々。組み立てる動作がとても楽しかったようで、夢中になって木槌を叩き続ける可愛らしい様子が見られました。

さらに、今回は食のブースも大盛況で、プリンやトマトの加工品が楽しめる地元食材を使った「さが農村マルシェ」や原木しいたけの天ぷらの試食会などが大人気で、地産地消の魅力あるグルメを楽しむ姿が見られました。



木のジャングルジム「くむんだー」

木育・林業の広がりを期待

今回のフェスは、木と触れ合う楽しさをたくさんの人に届けることができ、「普段できない体験ができてうれしい」「来年も参加したい」という嬉しい声が多く寄せられました。



木工工作ブース

木育とは、木のぬくもりや香りを感じながら、木材を使った体験や学びを通して、木や森林の大切さ、木材の魅力とその利用意義などを理解することです。

今回のイベントを通じて、子どもから大人まで幅広い多くの方々が、木育や林業の魅力を再発見し、理解を深めるきっかけになったことと思います。今後も、こうした取組をさらに進化させ、木育や林業の魅力をより広く発信していきたいと考えております。ご来場いただいた皆さま、関係者の皆さま、誠にありがとうございました。

(林業課 林産担当 中村春香)



「豊かな自然を未来へつなぐ 森川海人っ森づくり協定」とは

佐賀県では、森川海のつながりや管理の重要性などについて、県民の皆様の理解醸成を図るとともに、環境保全活動などの行動促進につなげていく、「森川海人っプロジェクト」を展開しています。その一環として、「豊かな自然を未来へつなぐ森川海人っ森づくり協定」を推進しています。この協定は、県と企業・団体が森づくりに関する協定を結ぶことで、企業・団体による森林づくりを推進し、「森川海はひとつ」という思いを県民の皆様に広げ、森川海の環境保全行動へつなげていく仕組みです。森を守ることは、川や海の豊かさを守ることにつながり、私たちの暮らしや未来を支えます。



株式会社サガシキとの締結式の様子 (R7.9.8)

新たな協定 第10弾～「サガシキの山」～

令和7年9月に、株式会社サガシキと第10弾目となる「サガシキの山」を締結しました。株式会社サガシキでは「森に降った雨は地中の栄養分を吸収し海へと向かいます。森から始まる壮大な食物連鎖と生態系、豊かな海は豊かな森があつてこそ。サガシキはかけがえのない自然環境を未来へ伝えていきます。」との想いで森林保全活動に取り組まれています。

具体的には、「レイクサイド北山」の860㎡(約0.09ha)の森林で、植林、下刈りなどの森林づくりを今後10年間行われます。協定式では、山口知事から枝吉社長へ協定締結記念として「ホオノキ」の苗木の贈呈が行われました。ホオノキの花言葉は「誠実」、「誠意ある友情」、「自然の愛情」などである

ことから、社是を「誠実」としている株式会社サガシキにふさわしい樹木であること、また、ホオノキの葉は昔から食べ物の皿代わりや、包む材料として使用されてきたことから、パッケージの会社である株式会社サガシキにふさわしい樹木として選定しました。

協定の取組や地域交流への広がり

これまで協定を結んだ企業・団体は、植林や下刈り、伐採などの活動を通じて、健全な森林を育てます。協定を締結した山では植林や下刈りなどが実施されています。特に下刈り作業は植林した苗木の成長を促すため、周囲の雑草や雑木を刈り払う森林づくりに欠かせない過酷な作業ですが、各企業・団体の皆さんは一生懸命に頑張っています。

近年では「佐賀トヨタの山」においては、地元の小学生と一緒に伐採した枝木を使ってオリジナルプランターを製作され、絵を描いて花の種をまいたり、アカハライモリやクルマバツタなどの珍しい生物を観察したりと自然学習の場にもなっており、森林づくりを通して環境教育や地域交流が広がっています。



「佐賀トヨタの山」での森林環境保全活動の様子 (R7.9.25)

県内市町に広がる森づくりの輪

森川海人っプロジェクトに賛同する「チーム森川海人っ」に県内全市町が登録されたことを契機に、この森づくりの輪が市町にも広がっています。令和7年6月には、佐賀市において、株式会社ダイブ、三瀬もりの会の3者で、県内市町では初めてとなる「豊かな自然を未来へつなぐ森川海人っ森づくり協定」が締結されました。

県だけでなく、市町と企業・団体が協定を結ぶことで、より多くの方に森林づくりに関わるきっかけが増え、地域全体で自然を守る取組が広がっていくことを期待しています。

(森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当 富田大志)



はじめに

みんなの財産である森林を守り育て、次世代にしっかり引き継ぎ、森林による恩恵を十分に受けるためには、荒廃した森林の再生を県民の皆さんと一緒に進めることが重要です。

そこで、佐賀県では佐賀県森林環境税を活用して、ボランティア団体等が企画・立案し、自らが地域で取り組まれる森林づくり活動を支援する「**県民参加の森林（もり）づくり事業**」を行っています。

応募できるのは、県内に事務所等がある3名以上の団体（地域住民、ボランティア団体、NPO法人など）です。荒廃森林の再生を目的として、自主的かつ持続的に取り組む森林づくり活動や環境教育活動など、荒廃森林の再生に対する意識醸成につながる活動を補助の対象としています。〔補助率：10/10、補助上限額：1団体200万円〕

これまで支援した活動の紹介

県民参加の森林（もり）づくり事業は、平成20年度から始まり、現在、第4期を迎えています。これまで、県内各地で、自治会、老人会、NPO法人や企業の有志グループなど、延べ208団体、32,291人の方が活動をされました。

活動内容は、団体により様々ですが、人工林に侵入した竹の伐採や作業道を整備する本格的な活動から、伐採した竹や木を活用したワークショップ、広葉樹の植栽、子供たちへの森林環境教育など、地域の方々の巻き込みながら、森林・林業について興味・関心を持ってもらうための幅広い活動が行われています。

■活動実績

| 事業期間 | 団体数 | 延べ活動者数 |
|-------------------------|-----|---------|
| 第1期 (H20～H24) | 53 | 6,275人 |
| 第2期 (H25～H29) | 77 | 14,720人 |
| 第3期 (H30～R4) | 61 | 9,265人 |
| 第4期 (R5～R9) ※R6までの実績 | 17 | 2,031人 |
| 合計 | 208 | 32,291人 |



荒廃した竹林の整備

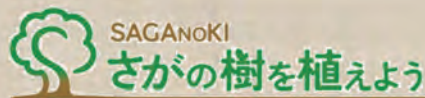
活動団体の声

本事業を活用しながら活動されている団体からは、「荒れ果てた竹林がきれいになることでの達成感が得られた」「地域の方と交流するきっかけづくりになってよかった」「補助があったので、無理することなく活動することができた」「参加した子供たちの笑顔がいちばんうれしい」「毎年、活動を継続して行うことで、植栽した樹木の成長に喜びを感じる」といった声をいただいています。

県では、今後も引き続き、県民の皆さんと一緒に大切な森林を守り育てていく取組を進めてまいります。更なる活動の広がりを期待しています。



伐採した木材を活用したワークショップ



県では、広葉樹苗木の認証制度を導入し、県内に自生している優良な母樹から種子を採り県内で育てた苗木65種を「さがの樹」として認定しています。県内で育てた苗木を育てることは、生態系の保全や地産地消につながります。「県民参加の森林づくり事業」で木を植えるときは、佐賀の風土にあった「さがの樹」をぜひ積極的にお使いください。

(森林整備課 森川海人プロジェクト推進担当 笠原美波)



林野火災の現況と最近の動向

全国の令和6年（1月～12月）の林野火災の出火件数は、833件（対前年466件減）で、消失面積は1,068ha（対前年224ha増）、死者9人（対前年1名増）となっています。前年度から件数は減少していますが、1件あたりの林野火災の消失面積が増加している傾向です。林野火災の出火状況を月別にみると、4月が最も多く発生しており、次いで1月と5月で、降水量が比較的少なく空気が乾燥し強風が吹く時期に多くなっています。林野火災の主な原因としては、この時期に火入れが行われることや、山菜採りやハイキング等で入山者が増加することによる、火の不始末等が考えられています。

このような中、令和7年2月26日に岩手県大船渡市において大規模な林野火災が発生したことを受け、消防庁では「消防防災対策のあり方に関する検討会」を開催され、林野火災予防の実効性を高めるため、「林野火災注意報」が新設されるとともに、従来の火災警報のうち、林野火災の予防を目的としたものに、「林野火災警報」という通称が使用されることになりました。

また、“火災とまぎらわしい煙又は火災を発生おそれのある行為”として、消防署への届出が必要となる対象行為に、「たき火」が含まれることを明記することになりました。こうした動向を受け、佐賀県内の消防局・本部及び関係市町においても、火災予防条例や火入れ条例の改正が行われ、令和8年1月から順次施行されます。

火入れについて

火入れとは、森林、又は森林の周囲1kmの範囲内の土地（原野、山岳、荒廃地等）において、その土地の利用上の目的をもって、その土地の上にある立木竹、雑草、堆積物等を面的に焼却する行為とされています。火入れを行う場合は、森林法第21条第1項の規定に基づき、あらかじめ市町長の許可を受ける必要があり、許可を受けられるのは、下記の場合に限られています。

- ・造林のための地ごしらえ（植栽準備等）
- ・開墾準備（草木の焼却等）
- ・害虫駆除（松くい虫等） ・焼畑 ・採草地の改良



「火災予防条例」等の一部改正について

市町長は、空気が乾燥し雨が長く降らないなど、気象状況が林野火災の予防上、注意する必要があると認める場合に、「林野火災注意報」を発令します。さらに、林野火災注意報の発令時に強風注意報も発表された場合など林野火災の予防上、危険な気象状況になった場合には、「林野火災警報」を発令します。発令の対象期間は、通常、1月から5月までで、指定された区域内では、林野火災注意報の発令時は、火入れをしないことなど火の取扱についての努力義務が課せられます。さらに、林野火災警報の発令時は、火入れをしないことなど火の使用が制限されます。

<林野火災注意報・警報が発令されたら!>

◎林野火災注意報：発令時は、火入れなど屋外での火の扱いは控えてください。（努力義務）

◎林野火災警報：発令時は、火入れなど屋外での焼却はできません。（義務 [罰則規定有]）

※ 林野火災注意報・警報が発令された際の火の使用制限などは、各市町によって定められますが取り扱いが異なる場合がありますので、ご注意ください。

<たき火などの届出先・火入れ許可の申請先>

◎火災とまぎらわしい煙又は火災を発生おそれのある行為の届出（たき火など）⇒（届出先：各消防署）

◎火入れ許可申請 ⇒（申請先：各市町）

※ 市町によっては、火入れはたき火に含まれる行為に位置付けられるため、火入れの許可申請があったことをもってたき火の届出がなされたのみならず場合があります。

今回、林野火災注意報・警報の運用が開始されることに伴い、市町の火入れ条例についても、所要の改正がなされることとなっています。なお、条例改正の詳細については、各地域の消防局・本部や市町のホームページなどをご確認ください。

（森林整備課 森林保全担当 家入皇仁）



「森川海人っ教室」を開催

～小学生が森・川・海のつながりや森林の働きを学習～

はじめに

令和7年11月5日（水）、神埼市の仁比山小学校4年生38人を対象に、佐賀県の森・川・海や森林の働きについて学ぶ「森川海人っ教室」を開催しました。学習指導にあたっては、県林業普及指導サポーターの神代さん（森林インストラクター）にもご協力いただきました。

おしとり 白角折神社の周りの動物・植物とふれあおう！

当日は仁比山小学校を出発して、まず神埼町城原にある白角折（おしとり）神社に行きました。神社には樹齢1000年にもなる大きなクスノキがあり、神代サポーターから、この木がどのように芽吹き、大きくなるのかの話を聞いた後、木の周りに落ちている小さな種を観察しました。またクスノキの枝張りがどれだけ大きいか測るため、皆で手をつないでクスノキの周りをかこみ、結果は、生徒たちが大きくいっぱい手を伸ばしたのと同じぐらいの広さになりました。

その後、農林事務所から紙芝居を用いて佐賀県の森・川・海つながりや森林の重要な働きなどの話をし、私たちが佐賀県の豊かな森・川・海を未来へつなぐために出来ることは、自然を楽しみ知ることだと伝えました。みんな5年生で習う環境の話で少し難しかったかもしれませんが、静かに聞いてくれました。



クスノキの大きさはどれくらいかな？



椎の実って食べられるの！？

話が終わった後は、神社の周りに住む生き物や植物を観察しました。みな思い思いに木の実や木の葉、カマキリやバッタなどを捕り、アリの巣などの観察を行いました。特に顕微鏡での動植物の細部の観察は、普段は見られない姿が確認できて興味津々で見入っていました。また、観察後は神代サポーターが持参された椎の実を炒ったものをみんなで試食してみました。中身は白い実が入っていて栗のようなほのかな甘みがあり意外なおいしさで、子供たちも大喜びでした。

八天山での森の生き物観察！

その後、八天山の麓の森でも生き物観察を行いました。子供たちは棒や熊手で落ち葉をかき分けながら珍しいキノコや髪の毛みたいな形をした変形菌、さるのこしかけや足の長いザトウムシなど見たことのない生き物たちを見つけ、あちこちから「つかまえたー」「見てみてー」「これなあーに？」の声がこだまし、楽しい観察会となりました。今回の教室は紙芝居で伝えた“自然に興味を持って楽しみ知る事”が十分にできた一日でした。これを機会に子供たちの中で自然に親しむ気持ちが、より大きくなっていくことを期待しています。



森の中にはどんな生き物がいるかな？

（東部農林事務所 林務課 普及担当 堀田千佳子）

担い手不足解決を目指して

唐津農林事務所では、管内で森林整備の中心的な役割を担っている、まつら森林組合の担い手不足解決に向けた取組を行っています。

その取組の一つとして、令和6年度から同森林組合の地元の佐賀県立厳木高等学校で、林業の魅力や仕事内容、森林の大切さ等を伝える「森川海人っ教室出前講座」に、同森林組合、唐津市、農林事務所で連携して取り組んでいますので紹介します。

働く人の生の声と現場体験で林業の魅力を届ける

当出前講座は森林環境譲与税を活用して唐津市が主催し、まつら森林組合と唐津農林事務所が講師となり、厳木高等学校1年生を対象に実施しました。

講座前後にアンケートを実施し、講座前は、生徒たちの多くが「林業は危険で、きつい仕事」というイメージを持っていましたが、講座で高性能林業機械を紹介し、実際の作業は安全対策を行った上で効率的に行われていることを伝えると、「意外と機械化が進んでいて楽に作業できる」「思っていたより安全」という感想があり、林業への印象が大きく変わった様子でした。

また、同森林組合の職員の方に参加いただき、意見交換しやすい雰囲気を作るためにワークショップ形式で生徒と直接対話する時間を設けました。美山さんからは「女性だからできないことはなく、チェーンソーを用いて伐倒作業をしたり、高性能林業機械を



高性能林業機械操作体験の様子（左：まつら森林組合の松尾さん）



森川海人っ教室出前講座の様子（森林組合との意見交換）
右からまつら森林組合の梅崎さん、美山さん、金井田さん

操作している」「思いどおりに伐倒できたときにやりがいを感じる」といった現場のリアルな声が届けられ、生徒たちからは「質問を通じて具体的な働き方を知れてよかった」との感想がありました。このリアルな声は、教科書や資料だけでは伝えられない現場の魅力を発信する貴重な機会となりました。

座学の後には、現場体験として、チェーンソーを使った伐倒と高性能林業機械（プロセッサ、フォワーダ）の実演を行った後、実際に生徒たちが操作体験をしました。初めて高性能林業機械に座って操作することに驚きや緊張した様子が見られ、こうした体験は記憶に残り、林業を他人ごとではなく、自分のこととして考えるきっかけにつながるものと期待しています。

地域連携で生まれた林業の担い手

まつら森林組合、唐津市、唐津農林事務所の3者で課題解決に取り組み、令和7年4月に、厳木高校の卒業生から1名の就業者が誕生しました。これは、講座の実施に当たり、進路指導の先生へ林業という仕事や同森林組合の給与面など、具体的な就職に関する情報を説明したことで、生徒が就職先の一つとして選んだきっかけになったのではないかと思います。

また、講座後のアンケートでは「森林組合に就職したい」と答えた生徒が複数名おり、林業への関心が確実に高まっていることを実感しています。林業の理解を深める農林事務所の座学と現場を熟知した森林組合の体験を組み合わせたことがよりよい学びの場となったと感じています。今後も、地域連携を続けていき、担い手不足解決に向けた取組を行っていきたいと思います。

（唐津農林事務所 林務課 普及担当 横田晃宏）



森林組合でワークショップを開催

市町と連携して伊万里西松浦森林組合の取組を支援

佐賀県では、「森を守る」、「人を育てる」、「木を使う」といった三つの柱のもと、「さがの林業再生プロジェクト」を始動しており、持続可能なさがの森林・林業の確立を目指しています。

そのような中で、伊万里西松浦森林組合では、伊万里・有田地域の林業や森林そのものをどうしていくか、組合役員及び職員一人一人が自ら考え、森林組合全体で理想や目標達成の実現に向かって取り組みたいと考えておられました。

そのため、伊万里市・有田町と連携し、「人を育てる（林業事業体の安定経営）」ための取組の一つとして、森林組合職員（役員、事務職員、技術職員）が、組合の発展のために現状について理解し、共通認識を図ることで、一丸となって問題解決に取り組めるよう意識の改善・向上を目的として「ワークショップ」を行うこととしました。

※ ワークショップとは参加者が主体的に参加できる体験型の学習を指し、主にトレーニングや問題解決等を目的として実施されるものです。

役員・職員別でワークショップを開催！

組合役員のワークショップを7月に、職員のワークショップを12月に開催しました。

役員のワークショップは4名ずつの2つの班に分かれて実施しましたが、①「森林組合の役割について」、②「森林組合の将来について」、③「役員としてできること」をテーマとして行われ、活発な議論がなされ、「市町等の行政サイドとの連携が必要」、「森林組合のPRをもっと行うべきだ」等の意見が出されました。

最終的に2つの班の意見は一致し、「佐賀県一の森林組合になる！」という目標が出されました。



役員ワークショップ



職員ワークショップ

職員のワークショップでは5名ずつの3つの班に分かれ、役員目標設定を受け、①「佐賀県一（理想）の森林組合とはどのような森林組合ですか？」、②「現在の森林組合についてどのように感じていますか？」、③「佐賀県一（理想）の森林組合を目指すために何をしますか？」をテーマとして行いました。

佐賀県一の森林組合に3班各々の意見がだされましたが、大きくまとめると、福利厚生が充実し、ワークライフバランスのとれた森林組合。プロ集団として認められており佐賀県一地元信頼され、きれいな森林づくりをする森林組合という意見が出されました。

また、佐賀県一（理想）の森林組合を目指すためにできることとして、一人ずつ目標を発表し、これから業務に望むうえでの

実行宣言がなされました。今後の伊万里西松浦森林組合の躍進に要注目です。

なお、いずれのワークショップにおいても伊万里農林事務所が進行・ファシリテーターを、伊万里市、有田町の担当者が記録係を務めており、現場の声を聞き、交流を深めることで、普及業務に役立つものとなりました。

次年度においてもワークショップが計画されているため、今後も伊万里市・有田町と連携して支援を行っていきます。

（伊万里農林事務所 林務課 普及・森林管理担当 林崎泰）



虹の松原にて保護部会研修会を開催

保護部会研修会とは

保護部会とは、九州地区林業試験研究機関連絡協議会の部会の中の1つで、森林病虫獣害に関する部会です。令和6～7年度の2年間は佐賀県が部会長を務め、「虹の松原を中心とした松くい虫防除対策についての研修会」を11月25日～26日に開催しました。九州各県の試験研究機関や森林総合研究所九州支所の研究員が参加し、松くい虫研究の第一人者である森林総合研究所東北支所の中村氏と日頃から松林の保全に取り組んでいる佐賀森林管理署の神谷氏、唐津市役所の勝田氏、県林業課の山浦氏を講師として招き、現地機関である唐津農林事務所の担当者を含め合計24名が参加しました。

松くい虫防除について学ぶ

研修会では、25日には唐津地域での取り組みについて、唐津市、県林業課、佐賀森林管理署の担当者から紹介していただきました。中村氏をはじめ、たくさんの方に質疑していただき、改めて松くい虫防除事業への関心の高さが分かりました。紹介後は、佐賀森林管理署の中島氏と三國氏に案内してもらい虹の松原の視察を行いました。九州各県の研究員からは、普段見慣れている松林と比べ「松がとても大きくて立派だ。」「地面がきれいに整備されていて防除もしやすそう。」といった驚きの声がありました。



虹の松原視察の様子

26日は中村氏に講演をしていただき、松くい虫被害の分布北限である東北での防除状況や防除対策の考え方と実践方法の検討について話していただきました。その中でも印象的だったのは「被害を抑制できないのは防除の不徹底によるもの」だということでした。被害の発見漏れ、駆除漏れによってその後の被害は一気に拡大してしまうため、被害発覚後はマツノマダラカミキリが成虫になって松から飛散する前に駆除してしまう必要があるとのことで、松くい虫防除事業の大変さが分かりました。中村氏の講演後は、九州各県の研究員から各地域での松くい虫防除の現状や課題、改善点などを紹介してもらい、相互に情報交換しました。

松原を守っていくために

今回、保護部会研修会を開催したことにより、普段見慣れている美しい虹の松原が多くの方々に守られていることを再認識できました。佐賀森林管理署の担当者による広大な松林の定期的な見回りや、毎年の有人ヘリによる空中散布、地域ボランティアによる清掃活動、唐津市による周辺松林の保護など、たくさんの人の協力と地元住民の理解により現在の美しい景観が保たれています。その気づきを得られた今回の研修会は、県外からの参加者のみならず、私たち佐賀県職員にとっても有意義な時間となりました。今回の研修会で学んだことを、今後の業務に活かしていきたいと思えます。研修会を開催するに当たり御協力



森林総研東北支所 中村氏の講演の様子

いただいた、佐賀森林管理署および唐津市役所の担当者の皆様、ありがとうございました。

(林業試験場 研究開発担当 中島美咲)

表彰受賞のお知らせ

第69回佐賀県森林・林業・緑化功労者表彰

- 個人の部 川原 嘉信（佐賀市）
- 個人の部 小旗 伸悟（伊万里市）
- 団体の部 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社（東京都）
- 団体の部 中島水辺の交流とオアシスの郷づくり事業推進委員会（唐津市）

令和7年度佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール表彰

- 知事賞 小学校の部 西口 ちはや（小城市立牛津小学校6年）
- 知事賞 中学校の部 合六 大晴（佐賀市立城北中学校1年）
- 知事賞 高校の部 山本 ふみ（佐賀県立有田工業高等学校1年）

令和7年度佐賀県緑化運動・育樹運動標語コンクール表彰

- 知事賞 吉村 優那（小城市立牛津小学校6年）

第41回佐賀県児童・生徒木工工作コンクール

- 知事賞 小学生低学年の部 森谷 康輔（小城市立岩松小学校4年）
- 知事賞 小学生高学年の部 太田 絢菜（有田町立有田小学校5年）

第8回佐賀県森川海人っ感謝状贈呈

- 森の部 北原 佳明（鳥栖市）
- 森の部 ふじ山守塾（佐賀市）
- 川の部 駒鳴集落を守る会（伊万里市）
- 海の部 有明海ぐるりんネット（佐賀市）

令和7年度ふれあいの森林づくり表彰

- 国土緑化推進機構理事長賞 大野岳タイワンツバメシジミ保存会（伊万里市）

令和7年度みどりの奨励賞

- 優良賞 山内町船の原緑の少年団（武雄市）

令和8年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

- 林野庁長官賞 小学校の部 毛利 彩乃（小城市立晴田小学校3年）

令和8年用国土緑化運動・育樹運動標語コンクール

- 入選 吉村 優那（小城市立牛津小学校6年）

受賞、おめでとうございます！！

緑の募金活用事業の紹介・春期募金（3～5月）御協力をお願い

緑の募金の活用について

（公財）さが緑の基金では、緑化の普及促進のほか、県民の皆様から寄附いただいた「緑の募金」を活用して、身近な地域の緑づくりや里山林等の整備を行う自治会やボランティア団体等に苗木代等の助成を行うほかに、次世代を担う緑の少年団の育成を図るため、少年団活動の支援や環境教育等を行っています。

R6募金額 52,011千円
皆さんご協力ありがとうございました!!



令和6年度は、地域の緑化事業や里山林の整備に助成するとともに、緑の少年団32団や森林づくりボランティア及び緑化・美化ボランティア13団体の活動に支援するなどした結果、広葉樹4,611本、花苗8,812株の植栽や13.35haの里山林を整備することが出来ました。

募金協力をお願い



森林は、水源涵養や国土の保全、地球温暖化の防止、山や川・海における生物多様性の維持並びに県民に保養やレクリエーションの場を提供するなど多様な機能を有しており、この機能の維持・向上を図るためには、継続して森林の整備や緑化を進めていくことが重要となっています。

については、今年度も春期募金運動として

3月1日から5月31日まで

実施しますので、県民の皆様のご協力をお願い申し上げます。



TO BE FORESTWORKER のムービー



こちらから！



SAGA 伐木チャンピオンシップ2025のムービー



こちらから！



< 編集後記 > 昨年10月に嬉野県有林で県林業改良普及協会と県林研協議会の共催にてラジコン式伐倒作業車の現地実演会を開催しました。当日は40名の御参加をいただきました。ありがとうございました。(N.B)

“山から受けとる、人がつなぐ”
「森川海人っプロジェクト」公式サイトはこちら！

<https://www.morikawakaito.org/>

さがのよか木を応援する
「よかウッド」公式サイトはこちら！
木材市況など随時更新！

<https://yoka-wood.jp>

編集・発行

令和8年2月1日発行

〒840-0212 佐賀市大和町大字池上 3408 番地

佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会

TEL : 0952-62-0054

※この冊子は、「木になる紙」を使用しています。

